



双塔

カトリック新潟教会

2020年3月
No. 382

四旬節の意味

教皇ベネディクト 16 世の霊的講話より

灰の水曜日の典礼から、四旬節の40日の旅路が始まります。四旬節の旅路は、わたしたちを聖なる過越の三日間へと導きます。聖なる過越の三日間は、わたしたちの救いの神秘の中心である、主の受難と死と復活を記念します。

四旬節は幸いな季節です。この季節の間、教会はキリスト信者が、キリストのあがないのわざをもっとよく知り、自分たちの洗礼の恵みをもっと深く生きるように招くからです。実際この典礼の季節において、神の民は初期時代から、神のことで豊かに養われ、創造とあがないの歴史全体を思い起こしながら、その信仰を強められます。

実際、四旬節は、古代イスラエルの生活と歴史に刻まれたいくつかの出来事を想起し、前表としてそれを示します。たとえば、40日間の大洪水の後、神はノアと契約を結びました。とりわけ、神は人類と契約を結んだのです。また、モーセが40日間シナイ山にとどまった後、二枚の掟の板が与えられました。

何よりも、四旬節という季節は、イエスとともに、イエスが荒野で過ごした40日間をもう一度体験するようにわたしたちを招きます。イエスは、人びとに宣教を始める前に、40日にわたり祈りと断食を行いました。

今日、わたしたちも、全世界にいるすべてのキリスト信者とともに、黙想と祈りの旅を始めます。それは、信仰の神秘の中心を黙想しながら、霊的な意味でカルワリオ（ゴルゴタ）に赴くためです。こうしてわたしたちは、十字架の神秘の後に、復活祭における復活の喜びを味わう準備をするのです。〔省略〕

キリスト信者の信仰生活は、神のこぼを基盤とし、神のこぼによって養われます。日常生活の中で試練や誘惑に出会う時、勝利を得るための秘訣は、真理のみこぼに耳を傾け、偽りと悪をきっぱりと退けることです。

四旬節の中心的、本当の課題は次のことです。すなわち、真理のみこぼを聞くこと。真理を語り、真理を行うこと。偽りを退けることです。偽りは、人類を毒し、すべての悪に通じる扉だからです。ですから、この40日の間、主のこぼであり、真理のこぼである、福音にあらためて耳を傾けることが求められています。それは、わたしたち皆が、いっそう強く真理を自覚できるようになるためです。真理を生き、あかすするために、わたしたちに真理を知る恵みが与えられているのです。

四旬節はわたしたちに、神のこぼを自分たちの生活に行き渡らせるように促します。また、そこから、わたしたちが根本的な真理を知るように促します。根本的な真理とは、次のことです。すなわち、わたしたちはどこから来たのか。わたしたちはどこに向かうべきか。わたしたちはどのような生き方をしなければならないか、ということです。それで、四旬節はわたしたちにとって、修徳と典礼の旅路となります。この旅路によって、わたしたちは自分たちの弱さに目を開き、キリストの憐れみ深い愛に心を開くことができるようになります。

四旬節は、わたしたちを神に近づけます。そこからわたしたちは、兄弟と、兄弟が必要としていることを、新しい目で見ることができるようになります。神を見ることを始めた人は、すなわち、キリストのみ顔を仰ぎ見ることを始めた人は、兄弟を見る目が変わります。その人は、兄弟の善いところも、悪いところも、必要とすることも含めて、兄弟を見いだすのです。

四旬節は真理に耳を傾ける季節です。ですから、四旬節は、愛へと回心するための幸いな期間なのです。なぜなら、深い意味での真理——神の真理——は、同時に、愛だからです。神の真理へと回心するためには、かならず愛へと回心しなければなりません。愛はわたしたちに、主の憐れみといつくしみのわざを行うことを可能にします。〔省略〕

世における自らの使命を自覚しながら、教会はキリストの憐れみ深い愛を告げ知らせ続けます。キリストは、すべての時代の人間と民族にその憐れみ深いまなざしを向け続けておられるからです。「世界のあまりにも多くの人々を苦しめている貧困というとても難しい難題を前にして、無関心と利己主義は、キリストの『まなざし』とあまりにも懸け離れています。教会が四旬節の間に特に勧める、祈りをともなった断食と献金は、わたしたちがこの『まなざし』に従う者となるためにふさわしい手段です」（教皇ベネディクト十六世「2006年四旬節メッセージ」）。この「まなざし」とはキリストのまなざしです。こうしてわたしたちは、わたしたち自身と、人類と、他の人を、キリストのまなざしで見えるようになります。このような心で、わたしたちは節制と祈りの雰囲気うちに四旬節を始めます。この雰囲気は、まことに、兄弟への愛の雰囲気だということが出来ます。

四旬節が考察と深い祈りの日々となりますように。そして、この日々を通して、わたしたちが、典礼によって豊かに与えられる神のこぼに導かれますように。また、四旬節が、断食と、悔い改めと、自分自身への注意を深める時となりますように。なぜならわたしたちは、罪との戦いがけって終わることがないことを知らなければならないからです。わたしたちは日々、誘惑にさらされており、誰もが毎日、自分の弱さと思い違いを経験しています。

最後に、施しのわざを通じて、四旬節が人への善行のための時となりますように。四旬節の間、与えられたたまものを兄弟と分かち合い、貧しい人、見捨てられた人が必要としていることに注意を払うことができますように。

あがないの主の母であり、神に耳を傾け、神のこぼを忠実に守ることをわたしたちに教えてくださるかたであるマリアが、わたしたちとともにこの悔い改めの旅路を歩んでくださいますように。わたしたちが思いと心を浄め、新たにされて、キリストの過越の偉大な神秘を祝うことができるよう、おとめマリアが助けてくださいますように。このような思いをもって、わたしは皆様が、実り豊かなよい四旬節を送られることを祈ります。